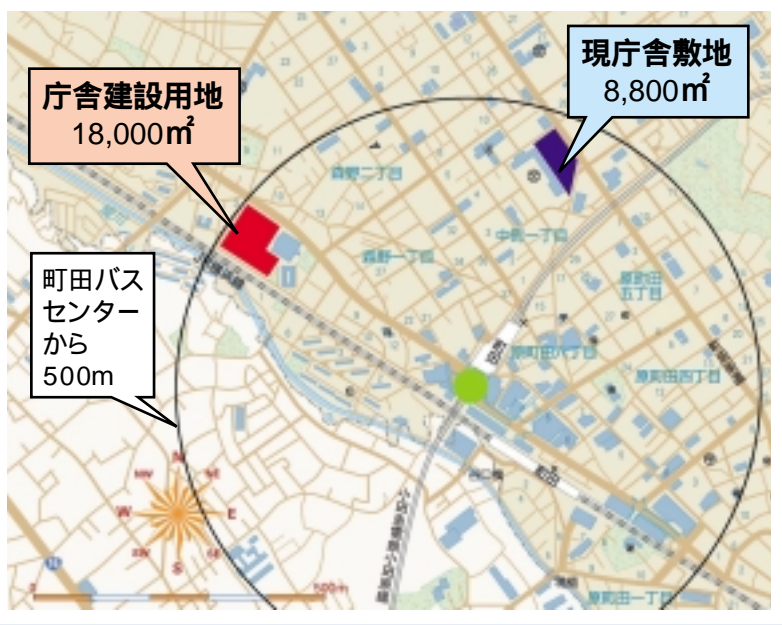


第2部 新庁舎建設 特集号

図1 庁舎建設用地案内図



新庁舎基本設計完成

これまで本紙でお知らせしてきましたとおり、市では、昨年10月に(株)横総合計画事務所と委託契約を締結し、新庁舎の基本設計を進めてきました。市民参加によるワークショップでの検討や、議会、行政での検討を経て、11月に基本設計が完成しましたので、その概要についてお知らせします(図面等設計の詳細は、2・3面に掲載しています)。 問企画調整課(新庁舎担当) ☎709・0593



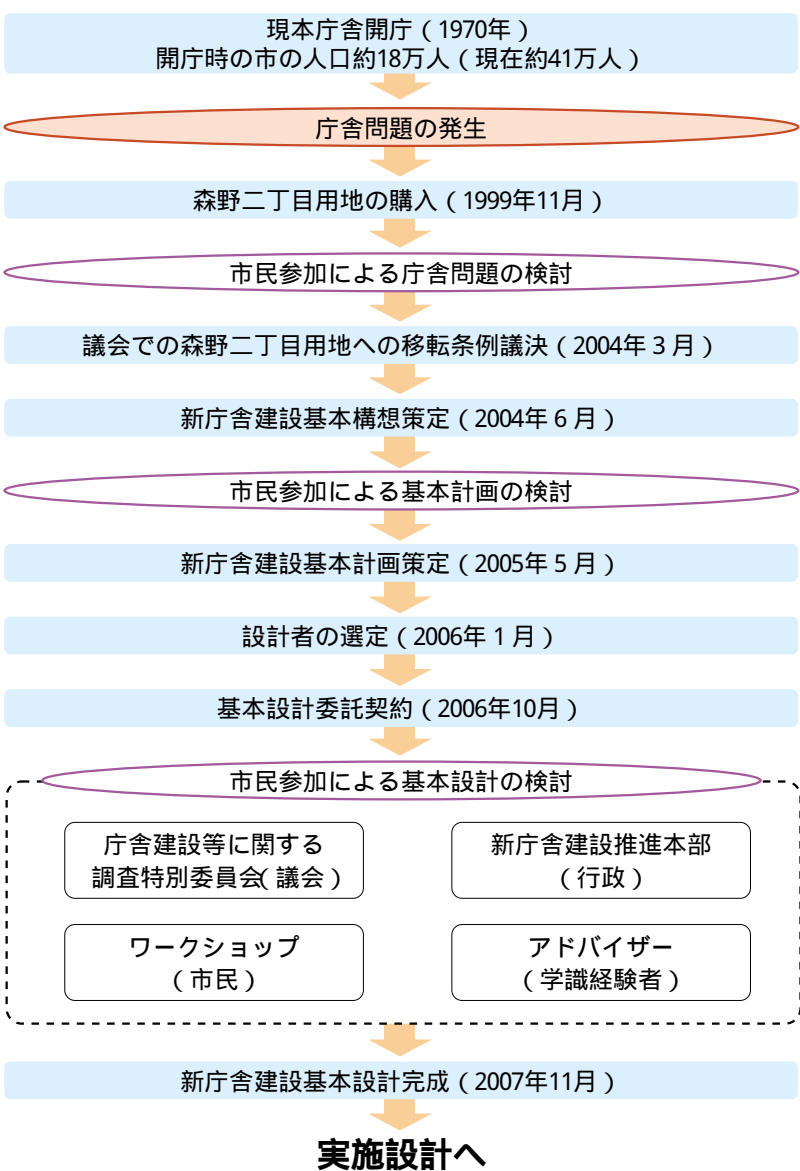
新庁舎の模型

北側(町田駅前通り側)から見たところ

建築概要

敷地	
建設地	町田市森野二丁目939番1
敷地面積	15,829㎡(道路整備後)
本庁舎	
建築面積	7,575㎡
延床面積	40,490㎡(うち駐車場部分4,450㎡)
階数	地下1階、地上11階、塔屋1階
高さ	49.13m
構造	(地上)鉄骨造 (地下)鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造
駐車場	380台(うち地下駐車場173台)
事業費	
建築工事費	約150億円

図2 新庁舎建設計画に関するこれまでの経過



新庁舎の主な特徴について

新しい市庁舎では、行政の拠点としての役割に加え、市民の拠り所となる開かれた庁舎を目指しています。新庁舎の主な特徴は、次のとおりです。

利用しやすい窓口の配置

市民が利用する機会の多い証明書の発行や、転入転出などに伴う手続を1階の総合窓口で行い、複数の手続が1か所で行えるようになります。また、来庁者の多い相談窓口を1・2階にまとめて配置し、誰にもわかりやすい庁舎となります。

市民協働空間の確保

行政計画等の企画立案段階における市民と行政との話し合いの場や、ワークショップスペースなどの市民参加型活

動の場を2階に確保し、市民と行政の協働での活動がしやすいようになります。

防災・災害復興拠点機能の整備

庁舎の耐震性能を通常建築物基準の1.5倍の強度とし、災害対策本部室を始め、災害発生時の情報拠点となるための機器や機能を整備し、防災・災害復興拠点とします。このことにより、災害に対して、より迅速に対応できるようになります。

将来変化に柔軟に対応できる空間配置

エレベーター、トイレ等を北側と南側の両側に集中配置することにより、執務空間を連続して確保します。こうしたことで、将来の組織変更や業務変化にも対応しやすくなります。

環境への配慮

アトリウム(吹き抜け空

これまでの経緯

基本設計完成に至る経緯は図2のとおりです。

現在の本庁舎は、1970年に開庁しましたが、その後、急激な人口増に伴う狭あい化・分散化、耐震性能の不足など、多くの問題を抱えることになり、行政や議会を中心に様々な検討がされてきました。

1999年に、庁舎移転を視野に入れて、森野二丁目用地が購入されると、市民や学識経験者を交えた本格的な検討が行われるようになりま

した。このように、新庁舎の計画が、市民参加のもと進められてきたことは、町田市新庁舎の大きな特徴といえます。基本設計の段階でも、市民参加によるワークショップを開催し、市民の意見・提案を反映させながら設計を進め、今回の完成に至りました(市民ワークショップの概要については第4面をご覧ください)。

こうした検討経過の中で、2004年3月議会でも、出席議員の3分の2以上の賛成により、森野二丁目への本庁舎移転が決まりました。

その後、市民や学識経験者を交えた検討が続けられ、行政、議会での検討と融合する

かたちで、新庁舎建設の指針となる「基本構想」(2004年6月)、「基本計画」(2005年5月)が策定されました。